

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** レプソルド子午儀室床下で気圧計記録紙発見 (レプソルド子午儀室床下探検)**

アーカイブ新聞第988号に「クロノグラフ収蔵」、第989号に「15mm幅クロノグラフ記録紙発見」という記事を書き、それらのテープではない記録紙も発見し持ち出し、この記録紙については次号で報告すると書いた。今回は気圧計の記録紙発見の記事である。まず発見されたのは1929年、1930年分の2束である。天文学会の封筒に入っていた (写真1)。

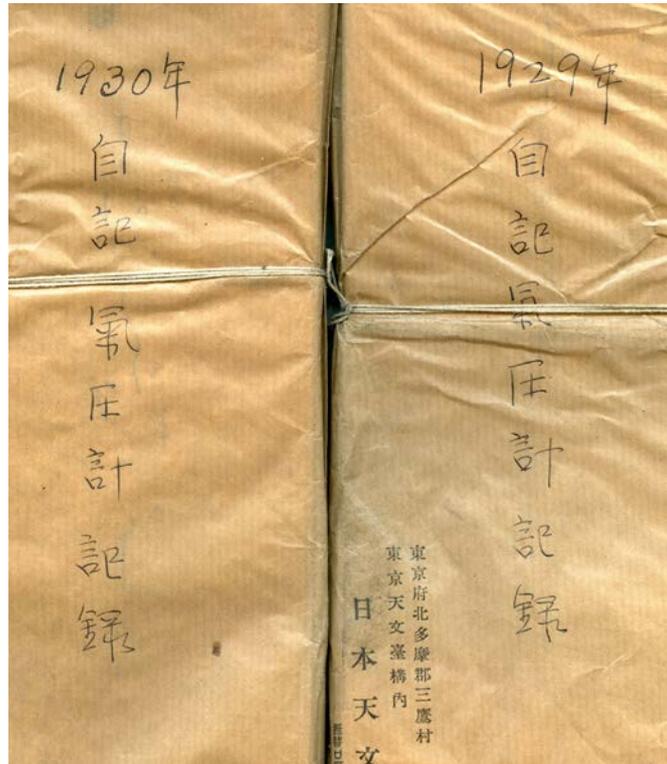


写真1 1929、1930年分の気圧計記録紙

記録紙は1枚1週間分だが、曜日がLundi、Mardi、Mercredi、Jeudi、Vendredi、Samedi、Dimancheと書かれている。これはフランス語である。ということはこの気圧計、記録紙はフランス製であろうか (写真2)。



写真2 曜日の表記

1929年分は50枚ある。記録紙は1週間1枚であり記録紙の始まりの日付を書いてみると、1929年1月7日から始まり、1月14日～、1月21日～、1月28日～、2月4日～、3月4日～、4月1日～、5月6日～、5月16日～、5月24日～の記録紙には「止まっていたら

しい？」というメモがあるが、このような事故はあったにせよ、1年分として50枚ということは記録のない日は非常に少ないとみていいようだ。5月27日～、6月3日～、6月10日～、6月17日～、6月24日～、7月1日～、7月4日～、7月8日～、7月15日～、7月22日～、7月29日～、8月15日～（不連続）、8月19日～、8月26日～、9月2日～（途切れあり）、9月9日～（9月10日には台風が通過したらしい記録が残っている（写真3））、9月16日～、9月30日～（9月30日にも台風が通過したようだ（写真2））、10月4日～（10月7日にも大きな低気圧が通過（写真3））など興味深い。10月9日～、10月11日～（この記録紙には2週間分が記録されている（写真3））、10月14日～、10月22日～（10月27日にも台風通過？）、10月28日～、この間1か月近くの記録紙がない、11月25日～、（11月26日にも大きな台風通過？）、12月2日～、12月9日～、12月16日～、12月23日～、で終わっている。

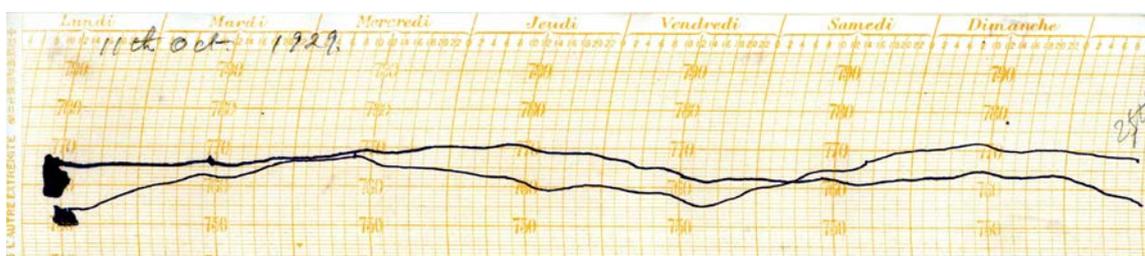


写真2 1929年10月11日～には2週間分が記録されている

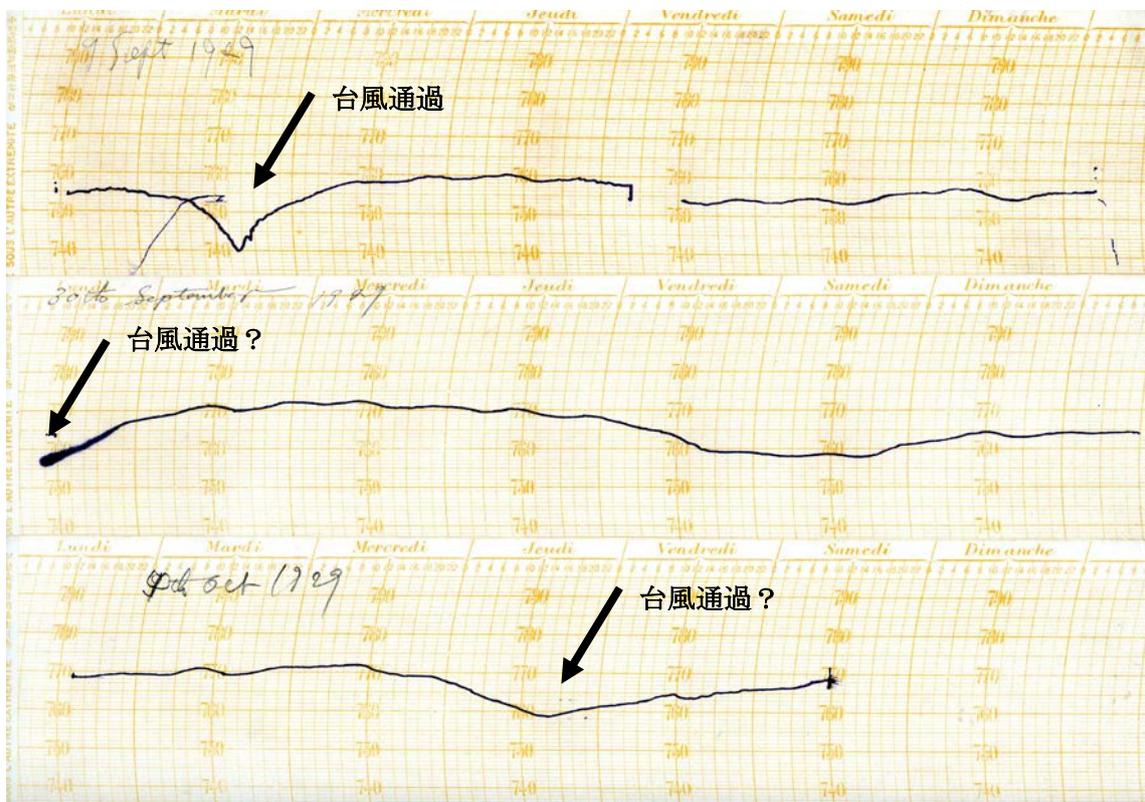


写真3 9月10日、9月30日、10月4日には台風通過？

このように、気圧の記録は完全には連続していないが、ほぼ1年間の記録がある。9月10日の台風通過の記録は短時間に通過したようで興味深い。筆者が岡山天体物理観測所にいたころ、台風通過で気圧計にこのような記録があったことを覚えている。

1930年の記録紙は53枚ある。1枚に2週間分の記録があるのが1枚ある。

今回発見された気圧計の記録紙はこの2年分なのであるが、レプソルド子午儀が使用されたのはこの2年間だけではなく、1950年代後期まで観測されたはずだから、こういった記録がどこかに残されているのかもしれない。現在ではこのような記録をスキャナーで読み込み、手軽に後世に残せると思っているが、それらは記憶媒体が読めることが前提であり、技術革新の速い今、今日記録した媒体がいつまで読めるか疑わしい。筆者の記憶だけでも、「ひのとり」のころデータを1日1巻のMTに記録し、永久保存と言われていたが、今となってはどうなっているのだろう。またフロッピーディスクに書き込んだものは、3.5インチのものはやっとな読めるが、5インチ、8インチとなると天文台の研究室ではもはや読むことが出来ないだろう。やはり紙で残ることの重要性を思うのである。

写真4は下から、1930年11月11日～、11月29日～、1931年1月5日～の気圧の記録であるが非常に変化が大きい。大きな低気圧が通過したものと思われる。

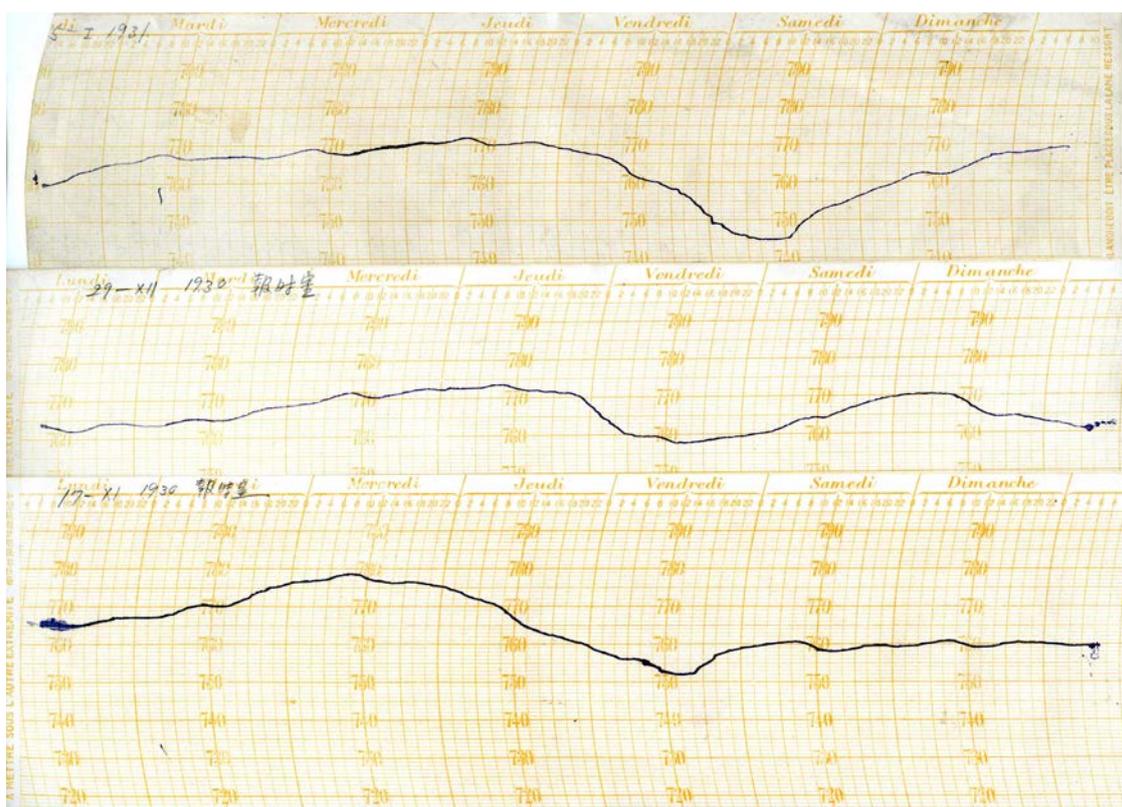


写真3 下から1930年11月11日～、11月29日～、1931年1月5日～の記録

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp